

医療法人稲生会（所在地：北海道札幌市）

事業名

手稲まちごと公民館構想

事業の趣旨・目的

・2024年度に実施したプロジェクトでは、剣淵町から学び、（当たり前に障害者を含む）住民が地域づくりの主体となる地域のあり方を目指すことを確認した。本事業は、実施主体による一方向的な地域づくりではなく、様々な主体の協働が重なった地域像を目指す。本事業では、(1)「みらいつくり大学」の取組を継続するとともに、(2)これまでの枠組の外に位置づく活動の企画/参画を推進し、(3)稲生会が一参加者となるローカルな地域の未来を語り合う場を企画する。

事業実施体制・連携先

・札幌市手稲区前田曙地区の地域づくりネットワークに関わるさまざまな主体を招いて連携協議会を実施する。コーディネーターは専任常勤1名。

主な対象

すべて/肢体/その他

活動分野

学習/文化芸術/情報保障/普及啓発/その他

事業内容

①みらいつくり大学による講座の実施

哲学学校、読書会、映画同好会、ハワイアン、アイヌ語、手話、オタクの語り場、メタバースで語る場など、障害の有無によらず学習者の興味関心からスタートした活動を継続して実施する。年間10講座、全100回程度実施する。

②「障害の有無によらずともに学ぶ場」という枠の外に位置づく活動の企画/参画

「障害の有無によらずともに学ぶ場の創出」に直接結びつかない活動についても、これまでの知見を活かした実施方法や参画方法について検討する。「医療法人稲生会」「みらいつくり大学」といった活動枠組が地域と接する境界帯に位置づくような取組について意図的に企画/参画する。

③地域に開かれたローカルな連携協議会の実施

目的にあるように、本事業では実施主体である稲生会もその一参加者となるローカルな地域の未来を語る場として連携協議会を実施する。連携協議会の開催を通じて、私たちが実施する様々な企画に多様な主体が加わることを促すだけではなく、私たちが他の主体の企画に参画したり、様々な主体による共同企画が生まれたりすることを目指す。連携協議会のあり方や名称も議論の対象とし、随時ホームページで情報発信を行う。



事業終了後の目指す方向性

・障害の有無によらずともに学ぶ場の創出を目指すみらいつくり大学の取組が、地域の諸活動となだらかにつながって連動し、困難を抱える一人一人の住民が地域づくりの主体となる地域を目指す。

・上記の地域の姿に向けて、事業内容①～③の方法について検証する。

その他

・みらいつくり大学校の取組については、みらいつくり研究所ホームページにて随時公開中。→みらいつくり研究所(<https://futurecreating.net>)

・各活動について、アーカイブの動画を整備し、無料会員登録を経て動画にアクセスできる環境の整備を行なっている。